

科目コーディネータ (科目責任者)	医学研究科教務委員長				問合せ先	医学部教務課 大学院担当		
科目コーディネータ所属	医学研究科教務委員会				連絡先	内線5512、5511/ idaigakuin@j.iwate-med.ac.jp		
講義場所	－							
区分等	区分	講義	回数	前期 8 回	単位	1	配当年次	1 ・ 2
担当教員	林 研 准教授（哲学分野） 廣瀬 清英 講師（法学分野）							
教育成果 (アウトカム)	教育成果						該当するディプロマポリシー	
	生命倫理と医療倫理、及び医事法学に関する知識を修得することで、医療における倫理・法律上の問題を学ぶことの必要性を説明することができるようになる。						1	
達成目標	達成目標					対象講義		
	(1)	生命倫理の諸原則、医療者－患者関係の原則を理解することで、生命倫理の基本原則について説明できる。				(1) (2)		
	(2)	生命倫理の具体的な事例を学ぶことで、医療倫理における諸問題を列挙し、それについて説明できる。				(3) (4) (5) (6)		
	(3)	様々な事例・判例を通じて、医事法学の基礎を理解し、それについて説明できる。				(7) (8)		
資格取得等	特になし。							
成績評価方法	受講票により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。							
特記事項	<履修に関する情報> 履修申請の際には事前相談に応じる。各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 受講票の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 講義資料、課題提出に関しては、Web Classを活用する。 受講後2週間以内に「受講票」を作成し、Web Classにアップロードすること。なお、講義を欠席した場合やオンデマンド形式の講義、秋入学者については、e-learningシステムから講義動画を視聴し、別途指定する期限までにWeb Classにアップロードすること。 <当該科目に関連する実務経験の有無 無>							
教科書・参考書	参考書：小泉・井上・今村・吉田編『テーマで読み解く生命倫理』（教育出版、2016）、赤林編『入門・医療倫理1』（勁草書房、2017）、塚田敬義・前田和彦編『生命倫理・医事法』医療科学社（2015）、樋口範雄『ケース・スタディ生命倫理と法〔第2版〕』有斐閣（2012）							

●講義日程

月日	時限	内容/到達目標	担当教員	講義場所
5月13日（火）	5	(1) 生命倫理とは何か 生命倫理に関わる歴史と現状を学ぶことで、生命倫理学が何を問題とするのかを説明することができる。	林 研 (哲学分野)	Zoom
5月20日（火）	5	(2) 患者の自己決定権 患者の権利の概念と歴史を学ぶことで、自己決定権の意義を説明することができる。	林 研 (哲学分野)	Zoom
5月27日（火）	5	(3) 医療倫理 1 安楽死・尊厳死の概念と事例を学ぶことで、安楽死の倫理的問題点を説明できる。	林 研 (哲学分野)	Zoom
6月3日（火）	5	(4) 医療倫理 2 臓器移植の歴史や現状を理解することで、移植医療の倫理的問題点を説明できる。	林 研 (哲学分野)	Zoom
6月10日（火）	5	(5) 医療倫理 3 生殖医療技術の歴史や現状を理解することで、生殖補助医療の倫理的問題点を説明できる。	林 研 (哲学分野)	Zoom
6月17日（火）	5	(6) 医療倫理 4 母体保護法や出生前診断の現状を理解することで、人工妊娠中絶の倫理的問題点を説明できる。	林 研 (哲学分野)	Zoom
6月24日（火）	5	(7) 医事法学の基礎 1 医事法の成立過程を学ぶことで、医事法学についてと医学研究実施の諸条件についてを説明できる。	廣瀬清英 (法学分野)	Zoom
7月1日（火）	5	(8) 医事法学の基礎 2 諸事例を通じて、医事法学の重要事項・概念である、医療行為と医療者の説明義務について説明できる。	廣瀬清英 (法学分野)	Zoom